

作成者:岡崎梨乃

作成日:2016年9月12日

皆さま、はじめまして。2016年度の福井県奨学生としてフィンドレー大学に留学させていただいております、岡崎梨乃(おかざき りの)と申します。渡米してから早3週間が経ちましたが、日々の勉学、アメリカでの生活がとても充実しており、このような機会をいただいていることに感謝の気持ちでいっぱいです。これから九ヶ月間福井県奨学生として、様々な活動に懸命に取り組んで参ります。毎回、中身の濃い活動報告を皆様にお伝えできればと思っております。また、この報告書を通じて、留学や国際交流の魅力を表明し、福井県の国際交流事業の発展に貢献できるよう努めます。

【自己紹介】

私は福井県で生まれ、高校卒業まで福井県で育ちました。現在、山梨県の都留文科大学に通っている4年生で、文学部英文学科に所属しております。教職課程をはじめ、英語教育について学んでおります。フィンドレー大学で、教育や経営学などを学ぶ予定です。現在、英語教員に進むか、ビジネスやサービス業の世界に進むか模索中ですが、自分の軸をしっかりともち、フィンドレー大学にて幅広い視野、教養を養いたいと思っております。

【フィンドレー大学について】



とても自然豊かなキャンパスで落ち着いて勉強できる環境にあります。また、授業は少人数制ということで、先生と生徒の距離が近く質問や発言がしやすく、意欲的に取り組みます。日本の大学と異なり、ディスカッションやプレゼンテーション、発表の機会が多く、表現力や傾聴力が養えます。例えば、発表の後には先生も含め生徒同士でフィードバックを行います。また、毎週様々なイベントが開催され、キャンパスに活気が絶えないところも魅力の一つです。私はアメリカ人のルームメイトや寮の友人たちをはじめ、PAINT Uという音楽フェスティバルにてペンキにもまれながらダンスを楽しみました。最初はアメリカの学生のパワーに圧倒されつつありましたが、私は特技のダンスですぐに彼らと打ち解けることができました。その

他にも特に新入生イベントの時期には行事が盛りだくさんなので、国を問わずさまざまな友達を作る場として最適です。



【世界各地からの留学生】

フィンドレー大学には日本人だけでなく、アジア諸国をはじめとした留学生がいます。中国、ネパール、ベトナム、インド、サウジアラビアが主要です。中でも今年度はネパール



人留学生がとても多く、私ネパール人の友達がたくさんできました。彼らの多くはヒンドゥー教や仏教信者で、宗教に対しての意識が高いです。また、とても気さくで優しく、そして、国や家族のために一生懸命勉学に取り組んでいます。私は彼らの真剣な取り組みに刺激を受け、負けじと毎日勉学や活動に励んでおります。

【ルームメイト】

私は大学の寮に住んでおり、二人部屋でアメリカ人の学生とルームシェアをしています。なんと私のルームメイトは日本語学科を専攻しており、お互いの言語や文化を共有し合って生活しています。私が宿題で困っていると、彼女は私が理解するまで丁寧に教えてくれます。また、彼女は日本の音楽、ポップカルチャーや観光に関心があり、英語で日本のことを紹介したりしています。これからもお互い励まし高め合える関係を築いていけるよう努めてまいります。



【KAKE festival】



KAKE festival では日本語学科の学生をはじめ、いろいろな国の人たちに日本文化を伝えるイベントです。手巻き寿司、書道、折り紙などのブースがあり、私は手巻き寿司作りの担当になりました。意外にも海外の人は寿司を知っていることが分かり、また寿司を食べてみたいという人が多いことに気がきました。なかなか食べられない海苔とご飯に苦戦していましたが、おいしいと喜んでもらえてよかったです。また、書道のブースにも参加しました。中国人の友人は「私の名前(りの)はどうやって書くの?」と尋ねてきたり、アメリカ人の友人は漢字の意味や読み方に関心を示していました。このような機会を通じて日本文化を広められたことに喜びをかみしめております。これからの留

学生活の中で、日本文化をより伝えていけるようにイベントなどでは積極的に、より自主的に取り組んでいこうと思います。

作成者 岡崎梨乃

作成日 2016年10月7日

フィンドレーに来て約2ヶ月が経とうとしています。先月とは異なり、気温がかなり下がってよいよ本格的に秋がやって来ました。今回の報告書では、授業、ボランティア活動についてお話ししたいと思います。

私はIELP (Intensive English Language Program) という集中英語コースの上級に所属しており、Reading, composition, listening, grammar, communication skills を集中的に学んでいます。どの授業も宿題が多く毎日宿題に追われていますが、全て力になると信じて取り組んでおります。私のクラスメイトは中国人、ネパール人、ベトナム人、日本人計9人というアジア色豊かなメンバーで、毎日切磋琢磨して学んでいます。また、フィンドレー大学は少人数制を特徴としており、疑問や意見を述べやすい環境です。先生と生徒の距離がとても近く、生徒のちょっとした発言も拾って、授業展開されるところがいいところだと思います。



また、私は Experience of Japan という授業を聴講しています。日本人学生がアメリカ人の学生と一緒に日本文化やアメリカ文化をお互いに教えあって学ぶ授業です。ある授業内で日本でよく使われる「よろしくお願ひします。」を英語でどう言うかを説明しました。一般的によろしくお願ひしますは一言で Nice to meet you. と言いますが、仕事関係の人などによろしくお願ひしますと言うときは 'I am looking forward to working with you.' などと言います。状況によってよろしくお願ひしますの使い方は多種多様であり、それをアメリカ人学生にわかりやすく伝えるために、例を提示する難しさを感じました。このように普段日本にいただけでは気づけなかつた日本特有の文化を認識することができました。また、同授業の課題で大学の Japanese Program House のキッチンでアメリカ人学生と日本料理を作りました。私のグループは、日本の朝食をテーマに卵焼き、

白米、味噌汁を作りました。久しぶりの日本の味に心温まり、アメリカ人の学生も深みのある味に美味しいと言ってもらえて嬉しかったです。

ボランティア活動について

フィンドレーのキャンパス内にある Mazza museum という所で、毎月 Funday Sunday という子ども向けのイベントが開催されます。私は Mazza museum で働いている日本人の方のお手伝いをさせていただきました。日本文化を地域の子どもたちに紹介するというので私もフィンドレーに貢献できるいい機会になるよう、参加しました。テーマは野球ということで、折り紙で野球のユニフォーム作ったり、ダンボール箱に球入れをしてビンゴをするという遊びをしました。特に折り紙は日本文化ということで、あまりアメリカの子どもたちには馴染みがありませんでしたが、一緒に折り紙を折ることで折り紙のコツや楽しさを知ってもらえたかと思います。参加した子どもたちの年齢が 3 歳から 7 歳ということで、言葉でコミュニケーションをするのが難しいときもありましたが、上手くできたらハイタッチしたり、笑顔で” good job” などと褒めたりして交流しました。

また、Findlay 大学からすぐ近くの Findlay 高校に行って、高校生に習字を教えるという活動をしました。1 テーブルに高校生が 4 人座っているところに私はつきましました。ほとんどの学生が習字をするのが初めてということでしたが、授業が終わる頃にはだんだん習得し、喜んで清書したものを持ち帰った高校生の姿が印象的でした。はね、はらいなど、英語のアルファベットにはないものを説明することに苦戦したこともありました。しかし、一緒に筆を持ちながら書いてあげると、見本を見て書くよりも体で理解することができて教え方としては一番効果的な方法だったと思います。

これらの活動を通して、奥深い日本文化を教えるおもしろさややりがいを感じました。これからも日本人としての誇りを持ち、国際交流活動をしていきたいです。

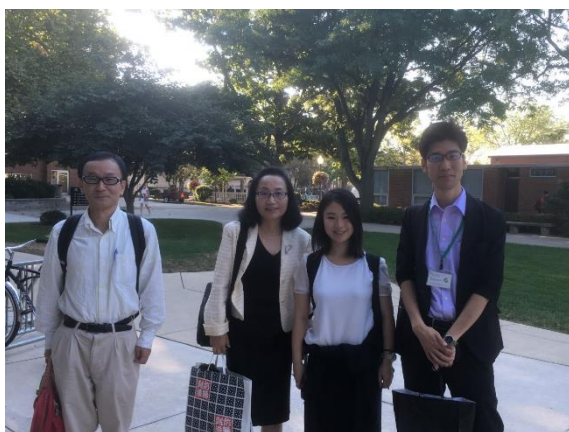


作成者 岡崎梨乃
作成日 2016年10月30日

10月に入り、紅葉がとても美しく見える季節になりました。それと同時に気温が先月よりも下がり、肌寒い日が続いております。涼しくも過ごしやすい気候であり、フィンドレーはさまざまな活動でにぎわっています。今回は福井県立大学からのお客様、秋休み、フィンドレーの子供たちとの活動、**Halloween** についてお送りしたいと思います。

【福井県立大学様】

先月の話にはなりますが、9月21日に福井県立大学から三名のお客様がいらっしゃいました。福井県立大学も交換留学制度を検討中だそうです。看護学部の教授が1名、同大学の国際課の方が2名いらっしゃいました。交換留学を行う上でどのような制度を整えたいのか、福井県立大学の学生に国際交流について関心をもたせるためにはどのようにしたらいいのかを、考えていらっしゃいました。特に看護学部との交換留学制度は看護学部の学生が国際交流に興味を持つ機会や学生が少ないことから交換留学制度を実現することは容易ではないが、大変価値のある事だと懸念なさっていました。私は3名のお客様に大学内のキャンパスツアーをし、施設や行事、歴史などについて紹介しました。振り返ると、フィンドレーは学生のための施設が大変充実していると感じました。例えば、2つある体育館は運動部の学生と一般の人も利用できるように用途によってわかれていたり、図書館以外にもたくさん勉強できるカフェや建物が充実していたり、留学生のための **ELL support center** では課題や **essay** の添削や、**speaking** の練習ができる場所があり、**Japanese**



Program house や **Bufford Center** でキッチンや冷蔵庫を使用し、料理ができるなど、大変学生にとってありがたい施設が整っていると改めて感じました。また、福井県立大学のお客様を迎え、福井県全体が国際交流活動や福井県の発展のために努めていることを感じ、私も奨学生として福井県に貢献したいという気持ちが高まりました。

【秋休みについて】

私は4日間の秋休みに日本人の友人とラスベガスに行ってきました。ラスベガスは西側にあるためオハイオとの時差が3時間もあり、アメリカの広大さを感じました。グランドキャニオン、ホースシューベント、モニュメントバレー、アンテロープキャニオンなど自然遺産のツアーに参加し、壮大な自然や濁流からできる深い溪谷を楽しみました。また、ラス

ベガス市内では、Uber や Lift というアプリケーションを通してのドライバーサービスを利用し、ショーを見たりショッピングなどをしました。眠らない街ということでラスベガスは常に人が活動しており、商業ビジネスに栄えた街だなと実感しました。また、警察が多いことから意外にも治安のいい街ということも発見です。



【フィンドレーの学生との交流】

10月も毎月開催される **Funday Sunday** というフィンドレーの子どもたちやその家族に



日本文化を紹介するボランティア活動に参加しました。今回はソーラン節を踊り、子どもたちをはじめとした観客に踊りの一部を教え、最後に一緒に踊りました。ソーラン節は漁師が元になっているダンスで、腰を低くして網を引いたり、海の波を表したりして、日本の文化を伝えることができたと思います。また、演技中の「ソーラン、ソーラン」

「ハッ」「どっこいしょ、どっこいしょ」など、日本ならではのかけ声と、躍動感あふれるダンスはアメリカ人の心に響いたのではないかと思います。

また、**Travel the globe** というオハイオ州の高校生がフィンドレー大学に集まり、各国の留学生と異文化交流をするイベントが開催されました。私は **Japanese session** に属し、日本についてのクイズや、箸の使い方を教えました。意外にも高校生は日本について勉強したことがある人が多く、日本についての関心が他の国に比べて高いことがわかりました。しかし、箸の使い方についてはほとんどの学生が苦戦していました。私は言葉だけでなく実際に高校生の指を触って、感覚をつかんでもらえるように工夫して教えようと思いました。

【Halloween】

10月31日はHalloweenということで一週間前からフィンドレーはHalloweenのイベントでにぎわっています。私はHalloween parade、アメリカ人の学生やキャンパス内に住む夫婦が主催するHalloween partyに参加しました。Halloween paradeはフィンドレーのdowntownで行われ、お菓子をおねだりする子どもたちに、仮想した人がお菓子を配るというイベントでした。そこには小さい子供たちの後ろに家族がいて、お菓子をもらうたびに喜ぶ子どもたちとその家族の笑顔に癒されました。また、paradeにはマーチングバンドやアメリカの会社の広告をつけた車が通り、町全体がHalloweenというイベントを通してそれぞれの事業を盛り上げているのだと思いました。

また、partyでは仮想コンテストや、Halloweenの歴史などを学びとても興味深かったです。Halloweenはアイルランド発祥の行事で、19世紀にアイルランド系移民が北アメリカに渡ったことからHalloween文化が広まったそうです。昔、アイルランドではSamhainというお祭りの日の11月1日は亡くなった人が亡霊として帰ってくる前の日と信じられ、仮装をしてその霊と一体となっているかのようにして、霊を浸透させないようにしたことから始まりました。それから18世紀にてキリスト教信者が10月31日の夜をHalloweenに変えました。Halloweenはアメリカ発生の文化と思われることも多いため、このような歴史はとても興味深かったです。



今月もご精読ありがとうございました。

作成者：岡崎梨乃

作成日：2016年11月30日

ついに冬が到来し、11月中旬にフィンドレーにも一日のみ雪が降りました。福井県ほどたくさん積もってはいませんが、フィンドレーではこれから来る冬に準備中です。さて、今月はアメリカにて大イベントが開催されました。4年に一度の大統領選挙、留学中の就活生にとって大イベントのボストンキャリアフォーラム、Experience in Japanese, Thanks giving break, Japan festival について紹介したいと思います。

【アメリカ合衆国大統領選挙】

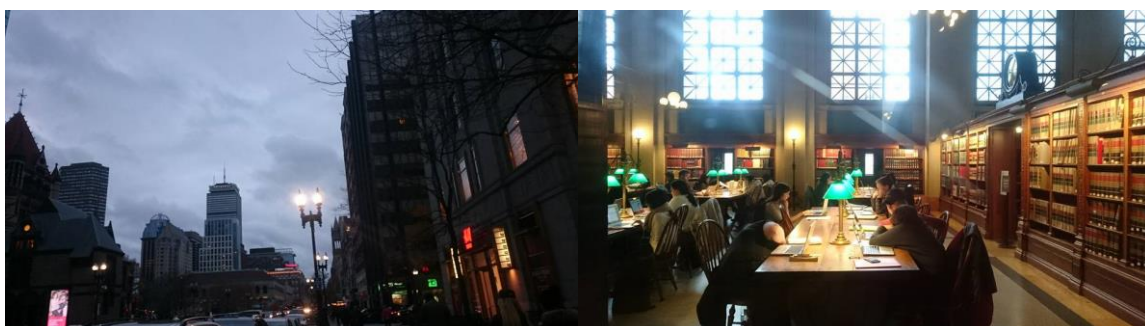
11月8日。世界中が注目したアメリカ大統領選挙を現地にて見る事ができたのは、本当に恵まれていると思いました。私は Explore in America という授業を履修しており、その授業の一環として大統領選をリアルタイムで鑑賞しました。大統領選の話をしていくと、ほとんどの留学生が民主党のクリントン氏を支持することに対し、アメリカ人の学生はアメリカ人のための雇用政策を促していることから共和党のトランプ氏を支持することが多いと感じました。オハイオ州は事前調査ではどちらでもなく中立したいでしたが、大統領選挙では共和党が多数となりました。このように事前調査で中立の州で共和党が多数を占めたことにより、トランプ氏が大統領選挙の勝者になりました。この結果に対して、私は日本の軍事費の問題や、TPP問題などどう発展していくのかこれからアンテナを高くして注目していきたいと思います。また、トランプ氏は移民に厳しい政策を立てる可能性が高いため、アメリカ永住権を得ようとしているネパール人やインド人にとって困難な状況を与える可能性があるということも感じました。それほどアメリカは世界に大きな影響力を与える国だということやその偉大さに改めて気付きました。



【ボストンキャリアフォーラム】

11月18, 19, 20の三日間ボストンにて、バイリンガルのための就活イベントが開催されました。正規留学生や交換留学生を中心に英語と日本語が話せる国際的な経験をもつ人を対象としたイベントです。はじめは流ちょうな英語だけでなく、中国語などさまざまな言語が飛び交い、帰国子女や有名大学出身の人たちに圧倒されました。しかし、自分をしっかりもち最高の自分をアピールすることを心がけました。実は私はこのイベントに元々参加する予定がありま

せんでした。しかし、一か月前に友達に勧められ、参加することを決意しました。そのため準備が1か月しかできなかつたのですが、自己分析や業界・業種研究、エントリーシートや履歴書の作成など最低限できることは行い、イベントに臨みました。その結果、3社面接をしてそのうち1社のIT企業の二次選考を通過し、帰国後日本で最終選考を受けることに成功しました。他の2社については、私はもともとメーカー志望だったのですが、企業とのマッチングがうまくいかず2次選考に進めなかつたという印象です。しかし、ボストンキャリアフォーラムでは、Walk in という制度があり事前にエントリーせず、会場で直接履歴書を渡し、書類選考が通ったら選考を受けることができます。私はIT企業の説明会で、風通しのいい社風や企業理念に強く共感し、即座に面接の予約を取り選考に進みました。このように忙しい留学中の中、ボストンキャリアフォーラムはたった三日間で内定を得たり選考に進める絶好の機会だと思います。私の反省点にはなりますが、自己分析をしっかりと行い、面接練習などをしっかりと準備をしておけば、より実りのある結果が出たと思います。しかし、実際に面接を受けてみることで、自分だけではわからなかつた新しい発見、可能性に気づくことができたという印象です。また、3日間で本イベント前の準備中の自己分析では出会えなかつた隠れた心の面に気付きました。帰国後就職活動をする予定のある人や将来企業で働きたいという人は、忙しい留学生活ではありますが、チャレンジすることをお勧めします。



左の写真はボストンの街並み。 右は Boston Public library です。

【Experience in Japanese】

この授業では日本人学生がアメリカ人学生に日本文化を伝え、アメリカとの違いを学ぶ授業です。今月は日本語独特の言葉である「和」、「縦社会」、「本音と建て前」、「もったいない」をそれぞれのグループによってプレゼンテーションしました。ものや時間を大切にする、謙虚で協調性のある日本人の美德を認識する一方で、日本文化の悪いところにも目を向けるきっかけになりました。それぞれの言葉に共通することは、目上の人に対して敬う傾向が強く、さらに協調性を重視するあまり自分の意見が言えないというデメリットもあることに気付きました。アメリカでは自己主張することで初めて会話が成り立ちます。目上の人に対して言い方や態度は丁寧に接し、なにかを改善するために必要と思ったことは年下でも遠慮なく言える環境があること、自分のできる範囲以上に仕事などの依頼をされた時は無理をせずに交渉や相談するこ

と。これらのことが日本でも実現できたら、過労死などの社会問題も解決するのではないかなと、考えました。

【Thanks giving break】

11月の第四週の木曜日は **Thanks giving day** というアメリカの重大イベントの一つでした。 **Thanksgiving day** は1600年代にヨーロッパから移住した人々がネイティブアメリカンによって冬を越すことを助けられたことにより、収穫物をはじめ感謝祭としてお祝いされます。大学では5日間の連休になるためアメリカ人の学生は皆実家に帰って家族や親せきと過ごすそうです。これは、日本でいうお正月に近いと思います。私はインディアナ州のルームメイトの家にホームステイさせてもらいました。料理をしたり、映画やバスケットボールの試合、ニューヨークで開催されるパレードをテレビで見たり、カードゲーム、キャッチボール、インタビューの課題などをして、ルームメイトの家族や親戚と交流を深めました。 **Thanks giving day** はみんなで食べ物を分け合う文化があるということで、私は日本風ジャーマンポテトをふるまい、とても好評でした。その他、ターキー、マッシュドポテト、パンプキンパイ、クランベリーゼリー、パイナップルポテト、オレンジポテトなど様々な料理を食べ、さまざまなことに感謝しながら会話を楽しみました。



【Japan festival】

11月15日に **Mazz museum** の担当の人が主催する **Japan festival** というイベントのボランティアをしました。イベントではさまざまな日本文化が体験できる、折り紙、習字、浴衣、けん玉、茶道、うどんやおにぎりなどの日本食などのブースが設置され、私は浴衣の着付けと、ソーラン節と日本舞踊をステージパフォーマンスで発表しました。フィンドレー大学の学生や教授だけでなく、地域の小学生から高校生やその家族まで参加し、会場は終始にぎわっていました。特に着付けのブースはとても人気で、私はいろんな人と会話をしながら着付けをし、写真を撮る作業の繰り返しでした。日本特有の和柄や平坦で細長いシルエットは外国の人にとってとても魅力的だそうです。また、ステージパフォーマンスでは、ダイナミックなソーラン節と上品な日本舞踊はそれぞれがもつ特有の日本文化を伝えられたのではないかと思います。また、最後にイベント参加者も交えて輪になり、日本舞踊を踊りました。改めてダンスは言葉や文化を関係なく、人をつなぐものだと実感しました。中間テスト、課題や就職活動などに追われ本イベントに向けて準備をすることが大変でしたが、その分イベントに参加した方々が楽しんでいる姿を見て、達成感を感じました。



ご精読ありがとうございました。

作成者：岡崎梨乃

作成日：1月8日

あっという間に期末試験を迎え秋学期が終了しました。4か月間苦楽を共にした IELP のクラスメイトともお別れで、寂しい気持ちが募ります。また、学部のダンスの授業では、集合写真を撮り、アメリカ人学生のアイデアで先生にサプライズプレゼントを贈りました。このようにフィンドレーは小さい大学だからこそ人とのつながりが強く築ける環境があるのだと強く実感しております。さて、今回の報告書ではフィールドトリップ、福井県についてのプレゼンテーション、福井県レセプション、冬休みについて述べたいと思います。



IELP のクラスメイト



DANCE の授業の集合写真

【Underground railroad】

11月の後半の出来事になりますが、フィールドトリップでフィンドレーから車で3時間弱くらいのオハイオ州内の市シンシナティにある National Underground Railway Freedom Center と John Rankin House & John Parker House に行ってきました。これは私のアカデミックアドバイザーでもある川村先生の授業の一つで、川村先生が引率してくださいました。博物館では主に17世紀から19世紀のアメリカの奴隷制が主に描かれています、アメリカの奴隷制度は1861-1865年に南北戦争が起こり、リンカーン大統領の奴隷解放誓言を経て奴制に反対する北部の勝利により収められました。Underground railroad から北部では奴隷制度に反対する黒人・白人は奴隷を北部に逃がすのを助けました。実は、Underground railroad は隠喩表現で、南部の奴隷が奴隷制度に賛成の人々に見つからないよう内密にかつ素早く南部から北部へ逃げたい人々の精神を表現しています。見つかったら南部に返還され、暴行を受けられ、さらに過激な労働を強いられるそうです。南軍と北軍を分けるオハイオ川はケンタッキー州とシンシナティの間に位置し、当時、南部の奴隷はその川を渡って北部に逃亡しました。館内にはそのころの様子を示す映像があり、生と死をかけてその川を渡る映像は、とてもスリリングでした。その他、世界の奴隷事情の

写真や展示物があり、教育を受けられずに労働を強いられる子どもたちや性奴隷で奴隷経済を発展させている国があることも知り、教育を受けられる義務が確立し、男女平等を促進する風土が出てきた日本は恵まれた環境なのだなと感じました。

また、**John Rankin House** では、オハイオ川を渡り丘を越えると、奴隷制度に反対し南部からの奴隷を保護した白人 **John Rankin** の家が残っていました。私は実際に家の中に入り、当時のキッチンや寝室などを目にすることができました。**John Rankin** は南部からの奴隷を養子として育て、なんと 15 人以上でその小さな一軒家に住んでいたそうです。また、当時、白人が奴隷を匿うことは許されていない中で、奴隷を家族の一員として受け入れた彼の心の偉大さに感激しました。

【福井県プレゼンテーション】

12月9日に **Farewell party** があり、今学期で留学生生活を終了する日本人学生のためのイベントがありました。そこには日本語学科の学生と日本人留学生が集い、お互いに学んでいる言語を使ってプレゼンテーションを行いました。日本語学科の学生が福井大学に交換留学に行くということで、私はこの機会に福井県についてプレゼンテーションをさせていただきました。私は渡米する前にフィンドレーで福井についてのプレゼンテーションをしたいと思っており、夏休みを利用して様々な福井の名所を巡りました。そのときの写真や経験は今回のプレゼンで非常に役に立ちました。まず、福井県にどんなイメージを持っているかを聞いてみると、「田舎」「めがね」「自然」などが挙がりました。意外にも日本語学科の学生の中にも福井に行ったことがあるという人が多く、新しい発見でした。プレゼンの概要としては、「場所」「食べ物」「問題点」「いいところ」に絞りました。東京からのアクセスの方法として北陸新幹線を導入し、福井駅の恐竜や商業施設のハピリン、東尋坊や勝山恐竜博物館などの観光地も紹介しました。また、食べものはおいしいお米からできている日本酒や、8番ラーメン、ソースかつ丼や越前ガニなどを紹介し、その中でもラーメンと新鮮な魚が獲れる東尋坊の海鮮丼がアメリカの学生たちに好評でした。また、小浜市の観光地にて販売されているオバマ大統領の顔が描かれている小浜まんじゅうの紹介では会場が笑いに満ちました。福井県民はオバマ大統領が好き。これはアメリカ人との距離を大いに縮める話題の一つだと思います。問題点としては原子力発電所の問題や人口減少による過疎化について発表しました。そして、いい点としては、福井県は幸福度が国内1位という点を挙げ、その理由について述べました。田舎で経済的に大きな力があるわけでもない福井県に住む県民がなぜ幸せを感じるのか。その理由は、教育水準が高いこと、治安がいい、失業率が低い、3世帯が多く女性が仕事に専念しやすい、平均寿命が長いことがあげられます。また、福井県民は雪国の中で育ってきたことから忍耐強い性格であり、ストレスを感じにくいのだと思います。私たち自身の周りの自然や食べ物、人々に感謝しているからこそ、幸せを感じるのだと考えました。プレゼンテーションを通して福井が誇る名所やものづくりの技術や人のあたたかさについて伝えられたと感じています。日本語学科の友人から「とてもよかつ

た！」「また福井に行きたい」「福井に興味をもった！」という声が聞けて嬉しかったです。

【日本語プログラム】

川村先生と一緒にフィンドレーから南に1時間くらいに位置する Benjamin logan high school に行ってきました。日本語の授業に参加し、川村先生はフィンドレー大学の日本語プログラムの紹介をし、私はここでも福井県のプレゼンテーションをさせていただきました。オーディエンスが高校生ということでプレゼンテーション中に質問を多めに投げかけたり、クイズを出すなどして、高校生の理解度が深まるよう意識しました。まるで教員になったかのように楽しかったです。私の投げかけた質問に一生懸命答えようとしてくれる姿、関心のあること楽しい時は素直に表現してくれる姿がとても愛おしいです。この活動を通じて少しでも多くの高校生が日本に興味を持ち、フィンドレー大学で日本語を学ぶことを考えるきっかけになればと思います。

それから、クラスでは日本語を使ったゲームをしました。体を使ってクラス全員が楽しく日本語に触れることができる最善の方法だと思います。また、ある上級のクラスでは自分の今ある力を駆使して日本語でコミュニケーションをとろうとする彼らの姿に感銘を受けました。

アメリカでは大学と高校の結びつきが強く、高校生が大学で授業を受講することができます。このような活動は高校生の好奇心や視野を広げたりすることに大いに役立つカリキュラムだなと思いました。

【レセプション】



福井県奨学生制度 10 周年のレセプションがありました。奨学金制度を設立したフリード氏をはじめ本大学の学長、フィンドレー市長、在デトロイト日本国総領事、フクビUSAなどが集い、本奨学金制度の10周年をお祝いしました。その他、福井大学との交換留学が維持されていること、福井県立大学とも交換留学制度や同大学看護

学部での短期プログラムが始まるなどフィンドレーと福井県の輪が広がっていることも感じました。

また、ディナーでは市長と学長を中心に大統領選挙後の教育について話し、これからのフィンドレーの教育面の発展について議論していました。組織のトップの人の考えは洞察力がありこれから変化する出来事、出会う課題に対して前向きに向き合う姿勢がとても素敵でした。そんな中、私の話にも耳を傾けてくれ、私の将来の話や来学期やりたいこと、さらにウィンターブレイクの予定や福井県のことなど様々なことを話しました。最初は緊張し

ていましたが、とても親しみやすい方ばかりで会話を楽しむことができました。

レセプション中に流れたこのビデオ内でフリード氏の発言がとても印象に残りました。「社会に尽くそうと思うときには、自分と違う人たちとともに生きていくスキルが必要。自分の考え方にこだわることなく、ほかの文化に暮らす人たちの考え方、生き方を理解し尊重できるように生きることを若いうちから学ぶことが大切です。」社会には問題、課題がありそれに貢献しようと思うときには多文化を理解し尊重することが大切なのだ学びました。また、言葉をうのみにせず本当にその人の伝えたいことは何かを考え理解しようとするのが重要だと悟りました。ただ経験するだけでなく、その人、物事の本質を心から理解し自分なりの考えを持つことが「学ぶ」という意味なのだと考えました。

それからフィンドレーのラジオインタビューの取材も受けました。フィンドレーという素晴らしい場所で、たくさんの学びの機会をいただいていることに対する感謝の気持ちと、残りの留学生活で何を勉強したいかを伝えました。たった二問の質問でしたが、自分が発した言葉に責任をもって、実行したいと思います。

私がこうして留学できるのもフリード氏の優しさのおかげです。この留学制度はフリード氏の優しさからできました。私はこの感謝の気持ちを直接フリード氏に伝える機会をいただけてとても光栄です。福井県奨学生として、福井県の教育そして地域交流、経済発展のために貢献できるよう日々精進してまいります。

【冬休み】

約3週間の冬休みを利用して、ニューヨークとワシントン D.C.に行ってきました。ニューヨークでは4つの博物館めぐりや自由の女神像、ウォール街を訪れ、ブロードウェイミュージカルを見たり、タイムズスクエアで年越しをするなどして楽しみました。世界の経済の中心地ニューヨークは人々であふれており活動的な街と感じる一方、911 同時多発テロの跡地を見て世界中から注目されている大きな影響力をもつ国であることを感じました。それから白人の多いフィンドレーと違い、ニューヨークで暮らす人々の多くは移民でした。私は旅行中にタクシーの運転手やショップ店員などに積極的に話しかけ、ペルー、バングラディッシュ、アフリカ、トルコ、中国、韓国など英語が母語ではない人と、アメリカでの生活について話をしました。自由の国アメリカにて自分の夢、家族のために働き、生きる人々がたくさんいること。アメリカは移民が創り上げた国であり、多様な文化を認め合う風潮が強い国だということを改めて感じました。トランプ時期大統領によりそれが変わっていく可能性があることが悲しいと感じる一方、日本は移民に対して厳しい国ということにも気づきました。私の個人的な意見にはなりますが、これから日本は少子化により人手不足になるにつれて外国人との共存が一つの課題になるのではないかと思います。

また、ワシントン D.C.ではスミソニアン博物館やリンカーン記念堂、ホワイトハウス、ホロコースト博物館やニュージウムなどを訪れました。中でも印象的なのはニュージウム

という様々なメディアを使ってニュースや出来事を発信している博物館です。中でもピューリッツァー賞ギャラリーでは戦時中や発展途上国に飛び込み、一瞬のシャッターチャンスのためにカメラを構えるジャーナリストの写真が陳列されていました。写真から世界の裏側を知ることができ、メディアに対する見方が変わりました。報道されるニュースから事実を知るだけでなく、本当に記者が伝えたいこと、そこからどのようなことが考えられるかを真剣に捉えようという気持ちになりました。

ワシントン D.C.では博物館巡りを通して、過去の政治家、発明家、ジャーナリストらが世の中をよりよくするために励んできたことに感銘を受けました。これらの人々が築き上げた努力と成果に感謝し、私も世のため人のために貢献したいという気持ちを持ち勉学に励みたいと思います。



ピューリッツァー賞の写真

タイムズスクエアでの年越し

1月からは新学期が始まります。学部の授業ではマネジメントとコンピューターサイエンスというかつて学んだことのない分野に挑戦し、多くのことを吸収したいと思います。また、ボランティアやミュージカルなどにも参加し、主体性をもって取り組みたいと思います。とにかく多くの人と関わり、一つ一つのことを楽しみながら成果を上げる学期にしたいです。

長文を読んでいただき、ありがとうございました。

作成日：2月11日

作成者：岡崎梨乃

新学期が始まりました。学部の授業が入り、これまで以上に課題や予習復習が増えました。しかし、大変なことよりも英語で何かを学ぶことの楽しさを実感してきております。今月は授業、ボランティア活動や就職活動、ミュージカルについてお届けしたいと思います。

【授業】

今学期、受講している授業についていくつか取り上げたいと思います。

1. Principle of Management

この授業はビジネスの授業の一つで、マネジメントについて学びます。意外にも自己啓発セミナーのような授業で、ディスカッションやアクティビティがメインです。自分が大切にしている価値観を見つめ直し、マネージャーまたはリーダーとして組織を運営する上で、意識すべきことは何かを考えます。マネジメントをする上で大切なことは「人を巻き込むこと」です。人を巻き込むには自分のビジョンを明確にすること、自分の周りの人を幸せにする気持ちをもつことが基本ということを学びました。組織のトップの人の考え方を学び、マネージャー目線で組織の中でチームとして成果を出す考える術をきっかけになりました。

2. Introduction to Computers

これはコンピューター入門という授業で、火曜日は講義、木曜日はパソコンを使った技術の授業となります。講義では、基本的な用語や情報社会におけるモラル、これからのIT社会などを学びます。また、技術の講義では **Computer lab** で **Microsoft Office** 全般の使い方を学びます。今や私たちの生活で必要不可欠なテクノロジーの奥深さを知ることができ、とても興味深いです。また、IT は今や情報とつながるインフラでもあり、それがどのように社会に新しい価値をもたらすかが楽しみになってきました。

3. Introduction to Japanese Culture

これは川村先生の日本文化入門という授業で、これまでとは異なった角度から日本を見つめなおすことができます。歴史、政治、地理、ポップカルチャー、ホスピタリティ、本音、建て前など外国の人から見た日本社会などを学びます。特に日本の歴史や政治については今まで知らなかったこともあり、とても刺激的です。自分にとって当たり前のはずの日本文化を、客観的に思考することができました。これから外国人と関わる際には日本人として日本のことを正確にわかりやすく、そして思慮深く話せるようになりたいです。また、日本にいる外国人の気持ちに寄り添い、多文化

と自国の文化を理解し合いえるような環境づくりをしたいです。

【高校生とのふれあい】

フィンドレーの高校生による生涯学習を目的としたリーダーシッププログラムのボランティアに参加しました。これはフィンドレー大学の留学生と高校生がお互いの文化を知り触れ合うためのイベントです。それぞれの国の休日や食習慣、宗教、ファッションなど多様な話題について話しました。中でもおもしろいと思ったのはクラブ活動で、アメリカはシーズンによってするスポーツが異なり、自分の好きなものに好きなだけ参加していいということでした。一人の高校生は2年間で3つのスポーツ活動に参加したことがあります。日本は基本的に一つの部活に3年間従事するべきである風潮がありますが、自由の国アメリカでは選択の自由が施されていることを感じました。私の高校時代は部活に専念する生活を送っており、一つのことに粘り強く取り組む力が身についたように思います。また、これは社会人になってからも同じで日本は、最近では転職も考えられてきてはいるがまだまだ一つの会社に長く勤めることが求められる一方、アメリカではキャリアアップのために転職するというように、部活動が働くスタイルに少なくとも影響を与えているのではないかと考えました。

イベントの終わりに川村先生がおっしゃった「国際交流する際には自分からバリアを作らないようにすることが大切」ということが印象に残りました。ミュージカルの練習や学部授業に参加することで今までよりも私だけが留学生、日本人という状況が増えてきました。私はその場の状況を理解して目の前のものに取り組むことに精一杯にならず、周りの人に関心を持ち、相手のことを知りたいという気持ちをもって関わるのが大切だと実感しました。ただ話題について言及するだけでなく、より深掘りして密度の濃い話ができるように心がけたいです。「文化を知ることはおもしろい。」「もっと理解したい。」この気持ちがあれば言語は上達すると信じて精進しようと思います。わからないことを恥ずかしがらずに聞く、そして自信をもって交流したいです。

【Mobile Food Pantry】



低所得者などに食料や生活用品を無料で配給するというボランティアに参加しました。フィンドレーや近くの町から来た150人から200人の人が朝6時頃から外で列を作り配給を待っているそうです。シャンプーなどの日用品はフィンドレーの職員から寄付されたもので、食料はフィ

ンドレー大学が Chopin Hall という機関に 1000 ドル寄付し、そのお金で 100000 ポンド (45359.23 キログラム) の食料を The West Ohio Food Bank から購入したそうです。

建物の中で自分の番が来るのを待つ人たちに日本文化を体験してもらおうということで、私は習字と折り紙を教えました。中には供給されるまでに 2 時間以上待たなければならない人もおり、待ち時間が憩いの場になりました。人々の多くはお年寄りで、中には家族もいました。彼らの家族の話や日本の話などさまざまなことを話しました。中でも印象に残っているのは 70 歳以上の一人の老婦が節約をするために食べ物を残さず買い物を避け、同じものでも続けて食べているということを知りました。経済大国 1 位のアメリカにも「もったいない」精神を持ち懸命に生きている人がいるということを実感しました。

また、彼らはとても親しみやすく、私の着ている浴衣がとてもきれいとはめてくれ、ふれあいの後にはハグをしたり、手を握ったりして人の温かさを感じることができました。食べ物を分け与えるということも貧しさから救うための一つの方法になりますが、このようなふれあいで人々を幸せな気持ちにすることはまた新たなサービスになるのではないかと考えました。物質的な満足感、精神的な満足感の両方が満たされたときに最高に幸福感を感じることができるのだと思いました。

【ノバイジョブフェア】

ミシガン州のノバイという地で英語と日本語のバイリンガルのためのジョブフェアに参加しました。ここではアメリカに拠点を置く日系企業やアメリカ企業が主に日本語の話せるアメリカ人を求めて開催されました。日本では説明会がメインに開催されるのとは異なり、とにかく自分から足を運び、質問し、話すことが求められるため、主体的に取り組むことが重要です。私は関心のある企業のブースをまわり、レジュメを渡して採用担当者たくさん話すことを心がけました。担当者と話す際にそれぞれの企業のビジネスに焦点を当てその中で自分がなにをしたいか、できるかを考え伝えるいい練習になりました。

当たり前のことかもしれませんが、グローバルなフィールドで働くためにはビジネスレベルの英語力が必要になります。つまり、交渉できる力が必要ということを実感しました。現在の自分と理想の自分が遠く、落ち込むこともあります。「自分を信じる」ことを心において努力していきたいです。

また、本ジョブフェアでは採用だけでなく、インターンシップも募集しているところもありました。将来、アメリカで働きたい人はこのようなチャンスを存分に生かして、将来につなげてもらいたいです。引率して下さった川村先生はいつも私たちに学びの機会を与えてくれます。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

【ミュージカル】

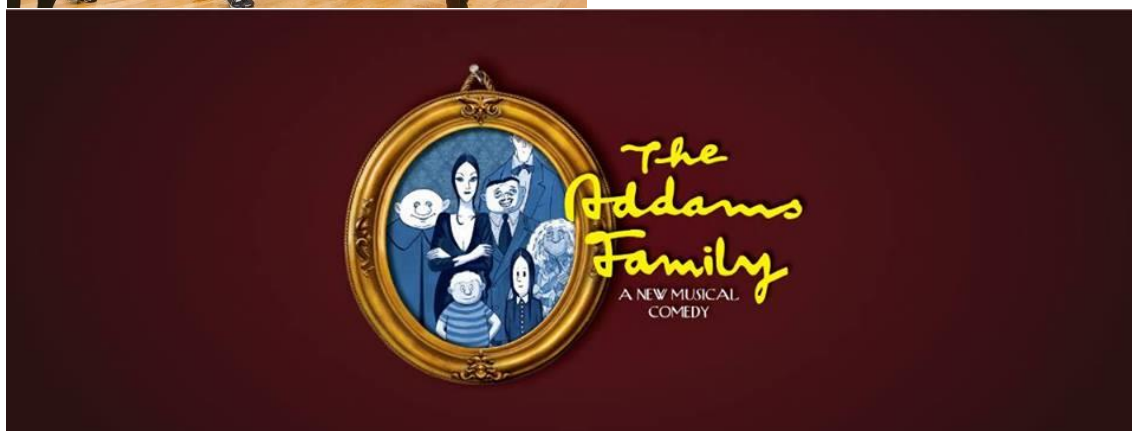
本大学であるミュージカルに参加します。私は高校時代チアリーダー部に所属しており、大学でもダンス部で活動を行っていることからダンスがとても大好きです。以前からミュ

ミュージカルなどの演劇に憧れており、思い切ってオーディションを受けました。私は歌はあまり得意ではなかったのですが見事合格し、キャストとして参加します。今年のテーマは「アダムファミリー」というお化けの家族のコメディです。テーマが家族ということもあり、約30人いるメンバー全員が大家族かのように思え、とても楽しく練習しています。

最初はアメリカ人の中に馴染むことができるか、また、ミュージカル未経験者の私は足を引っ張らないかを懸念していました。しかし、前学期のダンスの授業で知り合った子が”Hi, Rino. Are you excited? I am looking for musical with you!”などと、声をかけてくれました。歌の練習では楽譜が読めず最初は苦労しましたが、まわりのアメリカ人の子に助けを求めたら楽譜にアンダーラインを引いてくれるなどして丁寧に教えてくれました。休憩時間には「ダンス上手だね!」と話しかけてくれる人もいました。ダンスの先生は私が舞台の立ち位置がわからないときにわかりやすく説明してくれました。自分から心を開き、助けを求めると、こんなにも多くの人が手を差し伸べてくれることに気がきました。言葉や文化のバリアを超えて「できるようになりたい」「わかりたい」という気持ちを持ち続け、寄り添うことが大切だと学びました。

このように私は素敵な仲間と一つのものを成し遂げるためにほぼ毎日練習しています。勉強との両立と時間の管理が大変ですが、ミュージカルの練習はとても楽しいので乗り切ることができます。

ダンススタジオでの練習風景。



【終わりに】

留学生活も残り3か月を切りました。この1ヶ月間、数々の新しいことがありましたが、どれも楽しく充実しています。残された時間の中で、失敗を恐れずやりたいことをやり、悔いのないように日々精進していきます。

作成者：岡崎梨乃
作成日：2017年3月9日

1月は行ってしまふ。2月は逃げてしまふ。と言われるように時が過ぎるのは本当に早いと感じております。そのため1日1日密度の濃い時間を過ごすことを心がけてきました。今月は2月という通常よりも短い1か月間でしたが、たくさんの活動を主体的に取り組むことで充実した日々を送ることができました。今月は国際交流活動、ボランティア、そして、ミュージカルについてお届けしたいと思います。

【Photo Shoot】



ナイジェリアの留学生の子の企画で、Writingのクラスメイトとそれぞれの国の民族衣装を着て写真撮影をしました。彼女は自分のブログをっており、モデルのようにポーズを決め、そしてクリエイティブに私たちをプロモーションして撮影を進めてくれました。ガーナ、サウジアラビア出身のクラスメイトと音楽にのりながらそれぞれ個性を出し合い、楽しく撮影することができました。カメラマンは芸術専攻の中国人の子が撮ってくれました。改めてアメリカという地でいろんなバックグラウンドをもった人たちと関わることはおもしろいと思いました。



ナイジェリアの留学生の彼女は、国際交流にとっても関心が高く特にアジアに行ってみたくないと語っていました。彼女の専攻はPublic relations(PR)といって個人や組織、企業に向けてのPR活動を行います。例えば企業でいうマーケティングやブランディングなどにかかすことができるそうです。このPhoto Shootの目的はメディアを通して国際交流を世に広めること。そのために留学生で国を象徴する衣装を着て写真を撮りました。彼女のブログが更新されるのがとても楽しみです。このように自分のやりたいことをクリエイティブに考え、実行できる人は素敵だなと感じました。

【Black Tie Affair】



フィンドレー大学にて年に一度開催されるフォーマルなダンスパーティーに参加しました。2月は黒人月間と呼ばれ、奴隷解放宣言を発表したリンカーンと奴隷廃止活動家のフレデリック・ダグラスの誕生月であることからこのようなイベントが生まれました。これは **Black Union** というフィンドレー大学の黒人の学生団体が運営しています。このイベントでは、男性はタキシード、女性はドレスを着て参加します。普段ドレスアップをすることはないため、いつもと違った友人たちを見ることは新鮮でした。また、お酒無しで活発に踊るアメリカ人学生に感心しましたが、ダンスが大好きな私にとって友人たちで輪を作って踊ることはとても楽しかったです。また、**Photo Shot** というプリクラのようなものもあり、たくさんの友達と撮影しました。日本の大学ではないパーティなので改めて文化の違いを感じました。



ダンスパーティーの様子。 ネパール人の友人との写真。

【Service Ambassador】

ボランティアでフィンドレー市内にある老人ホームを訪れました。この活動では地域交流、多文化交流を目的としアメリカ人学生と留学生がペアになり、地域の老人ホームや保育園などに行き、アクティビティをするなどして交流します。最初の一回目は、利用者と一緒に時間半ほどお話をしました。広い施設の中を自由に歩き、パズルをしている人、部屋でテレビを見ている人、憩いの場でお話をしている人などに声をかけました。最初は私の英語が伝わらず悲しい思いをしましたが、アメリカ人のパートナーが言い直してくれることで会話が成り立ちました。高齢の方は難しい語彙やイディオムを多く使う傾向があるため高い理解力が必要です。さらに、いつも以上に発音やアクセントに気をつけなければならないため、い

い会話の練習になりました。

そして、ある利用者さんと大統領選挙について話しました。その方はトランプ氏を支持していました。理由を尋ねると、「今はまだ女性が大統領になるときではない。」「クリントン氏を信用できない。」とのことでした。今までアメリカ人学生や留学生などと話すことで学生目線で大統領選挙を見てきましたが、この利用者さんの発言は私が今まで触れたことのない視点で語っていました。長く生きているからこそ、政治的歴史を熟知しており発言に深みが出ると感じました。日本人として私なりの意見を伝えることができましたが、見方を変えているんな人の考えを共有することが大切だと学びました。

今回はお話だけをしましたが、次回からかるたやダンスを披露したりするなど、日本文化を導入しながら交流したいと思います。

【ミュージカル:The Addams Family 公演】

2月24、25、26日にミュージカルの公演が計3回ありました。本番の二週間前は平日五時間以上、土日は十時間以上練習しました。想像を絶するほど練習が長く、食事をしっかり摂る時間がない日が何日間も続きました。時間の管理が大変ではありましたが、毎日ミュージカルに没頭する日々は部活動のようで、再び青春を謳歌しました。



今回は The Addams Family というコメディを演じました。Addams家のメインキャラクターが6人、それ以外の20人はアンセスターになりました。私はアンセスター役で一人ひとり違ったキャラクターが与えられます。私のキャラクターはマリリンモンローで、セクシーなショートヘアのウィグをつけるのが毎回楽しみでした。

さらに日本とアメリカでの表現の違いに気づきました。私は日本で七年ほどダンスに携わってきました。日本人はそろっているかのシンクロ度合いを重視する傾向にあり、アメリカでは個性を尊重しほぼ自由に表現できることが特徴だと思いました。ダンスの先生も割と自由のパートが多く、角度などを変えて自分なりの魅せ方をしなさいと言っていたことが印象的です。また、アメリカ人の子は目や口を大きく開け、完全に役になりきる姿にとっても感銘を受けました。改めてパフォーマーとして自信をもって演技すること、個性を持ちつつテーマに合わせて表現することの重要性を感じました。

また、ミュージカルということで階段やプラットフォームなどのセットチェンジが1回の公演につき10回ほどありました。素早く正確に阿吽の呼吸で指定されたところに配置することが求められました。本番では声を出して話すことができないため、リハーサルでは効率よくするためにアイデアを出し合い、練習を何度も繰り返しました。地味な作業ではありましたが、一人一人が責任をもち道具を動かすこともミュージカルを成功させる上で重要な要素になることを学びました。



本番前のミーティングは皆で心をつなげる時間です。演劇の先生がとても元気な方で、皆で手を繋ぎ'Fuck this show!'と叫びました。日本でいう円陣みたいなもので、このショーを必ず成功させる、見ている人を感動させようという思いをみんなで共有しました。本番はすごく楽しかったです。観客席はほとんど埋まっており、観客の笑い声や歓声を浴びながら演じることは本番特有の高揚感が漂っていました。最後のスタンディングオベーションは最高に気持ちよかったです。



それから、IELPでお世話になった先生やアメリカ人、ネパール人そして、日本人などたくさんの友人たちが見に来てくれました。「すごかった！楽しかった！」「りのりはダンスが本当に上手だね」「教え子をミュージカルで見れて光栄だわ」「あのシーンのりのりが好き」などと言ってもらえて嬉しかったです。

この2か月間、ミュージカルの練習を通して成長することができました。アメリカ人の中で緊張感漂うオーディションから始まり、慣れない歌の練習に戸惑い、英語のシャワーを浴びながら語学力だけでなく、適応力が向上しました。また、ダンスに関しては先生をはじめ多くの人に褒めてもらうことで自信をもち、意見を交わしながら数々の練習を繰り返すことで演劇のスキルだけでなくコミュニケーション能力もついたかと思います。一方、プライドをもって演技に取り組むアメリカ人の中で日本人の私がキャストとして舞台に立つことに不安を感じていましたが、やりたいと思ったことはやりきる、やるからには最高のものにしたいという気持ちをもつことで不安は解消しました。自分から寄り添い助けを求めることで手を差し伸べてくれる人がいること、関心をもって話しかけることで異文化、言葉の壁を乗り越え、気持ちを一つにして最高の作品を築き上げることのすばらしさを噛み締めました。



ダンスの授業時からの友人。ある日の一日練習の朝食。 セットチェンジのメンバー

【終わりに】

留学生活も残り 2 か月を切りました。ミュージカルが終わり忙しい日々が落ち着き嬉しい気持ちと毎日共に過ごした仲間たちとの活動がなくなり寂しい気持ちが混ざっています。来月は **International night** や元気キッズ発表会などさらにイベントが盛りだくさんです。留学させてもらっていることに感謝し、一日一日を大切に日々精進して参ります。

ご精読ありがとうございました。

作成日：2017年4月3日

作成者：岡崎梨乃

皆さん、こんにちは。日本では福井商業高校チアリーダー部 **JETS** が全米大会優勝、そして、3月中旬に映画化されたということで福井はより一層にぎわっているのではないのでしょうか。私の母校、かつ所属していた部活動の後輩たちが並々ならぬ努力を続け、このような成果を出したことを大変誇りに思います。そして、**JETS** の **OG** 一員として、感謝を忘れずフィンドレーにて日々成長できるよう努力したいと思います。さて、今回は小学校にてボランティア、春休み、インターナショナルナイト、お花見の会についてお届けします。

【Children Mentoring】



フィンドレー市内に位置する **Jacob's** 小学校にてボランティアをしてきました。**Children Mentoring** とは、小学校4年生が4つのグループにわかれ18分交代でサウジアラビア、ネパール、ベネズエラなどいろんな国の部屋を回りそれぞれの国の遊びをして子供たちに異文化体験してもらうプロジェクトです。子どもたちは小さなノートをパスポートとして持ち歩き、私たちは大使館の入り口を演出するために「こんにちは」の挨拶からはじまり日本語で子どもたちの名前をパスポートに書いたり、スタンプを押したりしました。そして、私は日本人の子と協力してかるたを教えました。動物の描写がある読み札を私たちが読み、子供たちが当てるといふものです。日本特有のお手付きのルールを定着させることに苦労しましたが、子どもたちが一生懸命私たちの声を拾い取り組んでくれたことが嬉しかったです。終わった後にはかけよってきて抱き合ったり、日本語でありがとうと言ってくれる子もいて愛おしく感じました。



【Spring Break】

一週間の春休みに友人とフロリダ州オーランドに行ってきました。ケネディスペースセンターと、**Disney World Resort** の2つのパークと **Universal Studio** に行ってきました。フロリダ州はアメリカの中で最も南に属する州でとても暖かく、バケーションに最適の場所でした。また、フロリダ州ではスペイン語が英語と同じくらい話されており、案内板は英語とスペイン語で書かれており、タクシーの運転手のほとんどがベネズエラなど南米出身の移民でした。中には英語があまり得意ではない人もいましたが、生活を許可しているアメリカの移民への寛容さに驚きました。



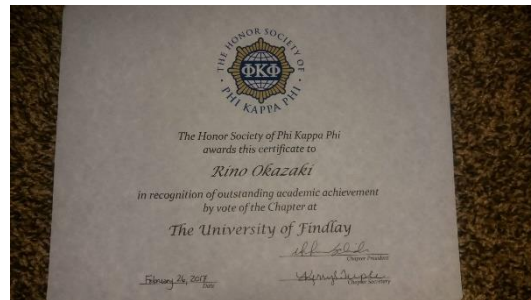
また、ケネディスペースセンターでは宇宙飛行士の偉大さに感激しました。宇宙飛行士は宇宙に行く際にとっさの判断力やストレス耐性が備わっていることはもちろん、科学、物理、数学などの学問のエキスパート、そして、絶対成功させるという強い意志をもち努力し続ける人ということを知りました。

宇宙飛行士は私たちのヒーローだということを感じました。現在、NASA は人類を火星に送り込むミッションに向けて取り組んでいるようです。間近で研究所や多数のケーブルが羅列された巨大なロケットを見て、ヒーローたちの努力の結晶を鑑賞することができました。近い将来私たちにも宇宙に行ける可能性があるようなので、宇宙という存在が身近になる日も遠くはないのかと思います。それでもアメリカに来て世界は広い、まだまだ知らない世界があるということを知り、さらに宇宙という奥が深い世界があることを改めて感じました。



【The Honor Society of PHI KAPPA PHI】

前学期の私の成績が 1 年生の中でトップ 5 パーセントにランクインしたことで、賞状をもらいました。今まで課外活動だけでなく、勉強にも専念した成果の証を授与できたことが大変うれしいです。Phi Kappa Phi とは、1897 年にアメリカのメイン大学にて設立され、すべての学問領域において表彰する



最も古く偉大な団体です。現在、アメリカ、プエルトリコ、フィリピンにある 300 以上の大学が登録されています。このように日々の学業の頑張りを評価してもらえる制度は学生のモチベーションを向上させることに効果的だと思いました。今学期もこの調子でできる限りの努力をし、輝かしい成績を残せるよう励みたいです。

<https://www.phikappaphi.org/>

PHI KAPPA PHI のホームページです。興味のある方は訪れてみてください。

【International night】

1年に一度行われる大規模なイベントであるインターナショナルナイトが開催されました。これは日本でいう学園祭のようなもので、留学生が食べものやアクティブティなどをふ



まえたブースを設置し、ダンスや歌などのステージパフォーマンスを発表します。今回日本ブースでは、焼きそば、おにぎり、お茶、着付け、お手前、箸ゲーム、紙相撲をしました。私はブースでお手前と浴衣の着付けを担当しました。お客さんに「日本は美しい」、「日本を訪れてみたい」と言ってもらい、多くの人が日本に関心を寄せていることに驚きました。それから各国の代表として浴衣を着てファッションショーにも参加しました。さらに、ステージパフォーマンスのために、私はダンス制作者、兼リーダーとして、ダンスの振付や構成を考え練習計画を立てみんなで作品を作り上げました。今回はソーラン節とAKB48メドレーを踊りました。

伝統的な音楽とポップミュージックで観客も違った雰囲気が楽しめたと思います。完成度の高い作品に仕上げるために私たちは週に2回の練習を二か月間行いました。その練習の成果が伝わり、たくさんの友人や先生に“Energetic!”, “Awesome!”, “You did a such a great job.”と言ってもらえて嬉しかったです。



ソーラン節衣装



日本ブース前



インド人の友人

【元気キッズ】

フィンドレーにあるリバティベントン小学校の授業の一環として、他文化活動を行うボランティアに参加しました。私と酪農大学の子と、日本語学科を専攻する日本人の3人で



毎週2回小学校に行き、遊びを通して楽しく日本語や日本文化を教えました。例えば、かるた、日本の給食についてのプレゼンテーション、おにぎり作り、おやつ、クイズ、お箸ゲーム、じゃんけん、あっちむいてほい、ダンスなどを行いました。その中でも特に私はダンスを担当しました。「大きな栗の木の下で」と「森のくまさん」の歌とダンス

を教えました。意外にも子どもたちは吸収がよくほとんどの子が大きな声で日本語の歌を自信をもって歌えるようになったことに感銘を受けました。また、50分の時間を私たち3人が先生の立場で、カリキュラムをアイデアを出し合い考えることはとても大変でした。しかし、試行錯誤を続けながらも、子供たちが楽しそうに取り組んでいる姿を見てやりがいを感じました。

それから、最後の授業日には保護者を招いた発表会を行いました。終始、息が止まりそうな発表会だったことは忘れられません。急に教室から体育館に移動したことでダンスの音源が使えない、また、3人での打ち合わせ不足ということから、一度落ち着きをなくしてしまいました。しかし、アドリブで保護者の前で曲の説明をし、音源がなかったため私が大きな声で歌いました。また、次にお箸ゲームをしました。どのようにやるか、誰がやるかなどの細かい打ち合わせは一切しておらず、さらに私は今までシミュレーションさえもしたことがありませんでした。しかし、考えるよりも先に行動することでなんとか上手く進行することができました。振り返ってみると、留学する前と比べて英語で人前で話す能力、そして、物事を前向きにとらえ臨機応変に対応する力が身についたように思います。これは今までいろんな経験を通し訓練してきたからからだと思います。ピンチを自分が伸びるチャンスに変えることができた自分の成長に気付いた日になりました。

【お花見の会】

ボールディンググリーン州立大学にて、お花見の会というイベントがありました。これは、トレド市、コロンバス市、フィンドレー市、ボールディンググリーン市などオハイオ州の各地の市から日本人や日本語を勉強している学生、日系企業で働いている人が集い、パフォーマンスやアクティブティを催しました。私は、フィンドレーとして元気キッズの子どもたちとダンスを発表しました。本番では子どもたちと一緒に緊張しながらも楽しく発表することができました。保護者の方や先生も温かい目で見ってくれたため、安心して発表することができました。この日が私にとって先生の役目を果たす最後の日でした。元気いっぱいの子どもたちやお世話になったクラスの先生方とお別れすることは寂しさを感じましたが、先生

は「今度日本に行くね」、保護者からは「子どもたちにいい経験をさせてくれてありがとう」子どもたちからピカチュウの絵をもらったり、抱き合ったりし、胸がいっぱいになりました。それから、日本人の子とインターナショナルナイトで披露したダンスに加え YMCA（ヤングマン）を踊りました。YMCA は Village people というアメリカ人歌手が歌ったものを西城秀樹がカバーしたことから日本でも耳にすることがあると思います。アメリカ人の観客も楽しそうにのってくれてよかったです。練習したものを発表できる機会をたくさんいただけたことに感謝です。

その他、他イベントで知り合った日本語の先生や、日系企業で働く日本人の方にアメリカで働くことについてお話をしました。いくつかアドバイスをいただいたので、胸に留め実行できるように努めたいです。

川村先生のおかげでたくさんの人々と出会い、かけがいのない経験をすることができました。この経験を活かし、留学させていただいていることへの感謝の気持ちをもちつつ留学最後の一个月は一分一秒大切に過ごしたいと思います。
ご精読ありがとうございました。

制作者：岡崎梨乃

制作日：5月13日

10か月の留学生活も修了しました。このレポートを書くのも最後になります。留学終盤ではフィンドレーで出会った人とお別れは切なく、悲しいものですが、この出会いに感謝して、これからも前進し続けたいと思います。

今回はEaster Break、Hart Walk、フクビUSA表敬訪問、フリード氏訪問についてお送りします。

【Easter Break】

4日間の連休でインディアナ州のアメリカ人の友人のところにホームステイしました。Easterとはキリストの復活祭のことです。金曜日にキリストが亡くなり、日曜日にキリストが再びよみがえったことからキリスト教の人にとって重要な休日としてお祝いされます。キリストが殺された背景として、ユダヤ教信者が多くを占めていた時代に、突然キリストが「僕は神の子である」と、キリスト教を広めようとしたことからユダヤ教信者たちに殺されたといわれています。キリストがキリスト教信者を守るために亡くなったんだというキリスト教の考えから、キリスト教信者はどんな状況にあっても神が見守っているから大丈夫だという考え方があることを学びました。この休日をきっかけに宗教についてかなり深く考えさせられました。また、その友人の家族は神聖なカトリック信者であり、食事の前に必ずお祈りしたり、彼女のお父さんがイースターについての映画を見ながら、解説してくれました。その他、庭でのEgg huntingにて、彼女の両親と兄弟が80個近くの卵を隠し、私たちはできるだけ多くの卵を探しました。それから、エッグペインティングやイースターバケットをもらったりバーベキューをしたりと、楽しみました。あたたかい家族と一緒に過ごせて本当に良かったです。私も将来、この家族のように温かい心で海外の人をもてなしたいです。



エッグペインティング

【Heart Walk】

Heart Walk というイベントに参加しました。これは、アメリカでは心臓病が一番の死因になっていることから、それをなくそうとする運動です。私は中国人、アメリカ人、エジプト人の友人とフィンドレー市内を 5 キロを約 1 時間で完歩しました。なかなか 1 時間歩くことは普段しないので疲労が出ましたが、異国の仲間と楽しみながら乗り越えることができました。街を歩いていると、多くの家がこの運動のために家を装飾したりして、活動を盛り上げていました。実は、フィンドレー大学はスポンサーとして毎年この運動に参加しています。Heart Walk 前日には、Children Health Day と謳って子どもたちが遊べるよう各団体がブースを持ちアクティブティをしました。日本ブースでは、川村先生をはじめ日本語学科のアメリカ人学生や、IELP の先生と協力して、子どもたちと一緒にハートの折り紙を作りました。このような活動を通して、フィンドレーというコミュニティに生きる一人として、地域の人と一つの事業を行うことができ、光栄です。たった 1 枚の折り紙で家族や子どもたちを幸せな気持ちにすることができました。それから、様々な人と一つのことを行うことは、自分の今までの習慣から一歩先に出たやり方に触れることができます。視野を広げるためにもこの活動はとても役立ちました。この活動を生かして、日本でも社会問題を地域の人に考えさせ、一丸となって実行できるような活動に参加したいです。



Heart Walk ゴール



市民のメッセージ

【フクビ USA 表敬訪問】

5月9日にオハイオ州デイトンにあるフクビ USA に表敬訪問しました。12月の福井レセプションでお会いした増永さんをはじめ社員の方と面会しました。工場見学では、耐久性のある窓枠の部品や、水を重要資源とする欧米諸国のニーズに基づいて作られた浄化水槽などを見て、日本の高い技術力を実感しました。また、製品を高品質を保つための品質管理の機械など最新テクノロジーを使って正確に良品を生産する仕組みを見ることができました。それから、外国製品と比べて日本製品は高品質な分、値段が高いため、在庫管理を徹底することで納期を早くするなどのサービスで差別化を図っているとのことでした。また、日本とアメリカとの働き方の違いからアメリカ人社員をマネジメントすることの大変さについても触れることができました。日系企業がアメリカにてビジネスを行うことは、容易ではありませんが、少しでも改善しようと試みるフクビUSAの人たちの前向きな姿勢に心を打たれました。私はこれまでのアメリカでの学びについてのプレゼンテーションをさせていただきました。プレゼンテーションを通して、福井県奨学金制度を支援して下さっていることの感謝の意を伝えました。フクビ USA の方々はとても暖かく私たちを迎えてくださり、誠に感謝の気持ちでいっぱいです。



【フリード氏へ訪問】

フクビ USA 表敬訪問後に、この福井県奨学生制度を設立したフリード氏のお宅へ訪問しました。自宅にいるのにもかかわらず正装で迎えてくれました。その日に行ったプレゼンテーションや私の地元の話、フリード氏の幼少期の話、ベトナムに兵士として行った第二次世界大戦中の話、お家の近くの Ohio North State 大学の話などをしました。家族や地域、そして国のために尽力してきたフリード氏の姿に感銘を受けました。そして、間近で福井県奨学金制度を設立したフリード氏とお話しできることは大変貴重な経験でした。フリード氏の思いをつなげていけるように帰国してからも奨学生としての役割を果たしたいと思います。



【終わりに】

10か月の留学生活が修了しました。私を支えてくださった皆様のおかげで、留学しないといけない経験や学びを得ることができました。日本に帰国してからもこの経験を活かし、福井県をはじめとした地域や社会のために貢献できるような活動をしたいです。

今までご精読していただきまして、誠にありがとうございました。

留学終了報告書

2017年5月

製作者：岡崎梨乃

気がきました。日本にいたときの私は井戸の中の蛙だったということ。日本にいたとき、私はいかに狭い世界の中で自分のやるべきこととやりたいことを全力で取り組んでいたことを思い知りました。特に高校時代、チアリーダー部ですべてを犠牲にし大きな夢に向かって努力しました。大学ではダンス部の活動、アルバイト、そして学業、すべてを両立させるために目の前のことを必死に取り組みました。しかし、アメリカに来て、日々の忙しさから離れ、自分の生き方、考え方を改める時間と心の余裕をもつことができました。アメリカにて、いろんな人に出会い、多くのことを学び、そして、勉学にこれまで以上に励みました。移民の国アメリカは多様性を大切にしていたこと、多くのアメリカ人や留学生との出会い、ボランティアを通しての地域の人々の交流、コンピューターやビジネスといった日本で受けていた授業とは異なる内容を学ぶ体験。世の中には私の知らない世界がまだまだたくさんあります。何事にも関心を持ち、心を開いて耳を傾け、それに対しての自己開示をすることが大切です。より成長するためには目の前にあることを懸命にこなすのと同時にアンテナを張って物事を広く見る必要があるということ学びました。

次に、人は何のために頑張るのかということです。一般的に人は自分が幸せになるために生きると考えられています。しかし、人や社会のために何かをすることが、自分の幸せにもなるのではないかということに気がきました。日本にいた頃の私は、部活動やアルバイトを通して競争社会の中で生きていました。そのため、己に打ち勝ち、向上心をもってその道のトップを目指すという考えを強く持っていました。しかし、フィンドレーに来てたくさんの社会貢献をしたい人たちと出会いました。中でもネパール人の留学生との話が印象的です。彼は誇らしげに夢を語ってくれました。アメリカで永住権を得て、働いた後に国に帰り、貧困層の子どものために学校を創立し、国に貢献したいという夢があります。そして、一度きりしかない人生の中で人の役に立つこと、感謝されることが生きがいになると言っていました。このことから自分の利益のためだけでなく、誰かのために精を出す生き方があるということ学びました。

自由の国アメリカ。それは自分勝手ということではなく、本当に自分がやりたいことをおもいっきり実現できる環境があります。日本は協調性を重んじる文化ですが、いい意味で「人からどう思われるかではなく、自分が何をやりたいか」という主体性をもって物事に取り組んでいきたいです。福井県奨学生として帰国してからもアメリカにて学んだことを福井県の人々に伝えられるようしっかりと役割を果たしたいと思います。

最後になりますが、福井県奨学生として選出していただき、留学という機会を下さった福井県国際交流協会の皆様に感謝申し上げます。それから、私の留学を支えてくださった皆様ありがとうございました。この体験をいかして、これからも目標に向かって諦めず前進し続けたいと思います。本当にありがとうございました。